

## 小崎弘道自筆集・自筆稿目録

土 肥 昭 夫

### 解説

本集・本稿は小崎弘道の長男道雄氏(1888-1973)の御遺志により静夫人によって同志社大学神学部研究室に2回にわたって寄贈されたものである。同研究室はそれを分類・整理し、製本して保存している。全部で84冊と膨大なものである。これらはもとより唯一無二のものであるから、多少の解説が必要であろう。

最初に『小崎弘道自筆集』70巻について述べる。ここにはまず、同志社英学校学生時代の講義ノート、1880年代に東京で多彩な活動をしたときの説教・演説・論説の草稿と原稿、活動の日記、文書の筆写、1890年代における同志社校長・社長としての若干の説教・演説の草稿、会議メモ、同神学校の講義草稿、イエール大学滞在期のF.ポーター、G.T.ラッド、G.P.フィッシャーの講義梗概ノートなどがある。

1897年彼は同志社社長を辞任し、東京に赴き、やがて霊南坂教会牧師に就任し、1931年これを辞めて晩年を迎えるが、自筆集は50余巻にわたってその足跡を伝える。彼が編集・発行した新聞や雑誌の関係記録、またこれらの発送や年賀の関係で彼が平生交渉をもった政財界人や幅広いキリスト教関係者の氏名と住所がある。さらに1898年以後の説教・演説・講演の草稿がある。主として霊南坂教会の礼拝説教であるが、それ以外のものも各ノートに2、3編入れられている。彼の説教草稿については、湯浅与三氏が1907年より晩年のもののうち、比較的まとまり、また氏が興味あると思われるものなど112編をえらび、『小崎全集』第5巻「説教集」に掲載された。

小崎はまた説教・演説・講演のみならず、1908年には集会に関連した記録

を書き加え、翌年よりこれを日記風に変えていった。しかも、それは次第に詳細となり、毎日のようにこれを1937年まで書き続けた。これが103巻に及ぶ備忘録である。これは分厚い大学ノートにぎっしり記されている。彼は晩年になってその第1巻より第92巻までを調べ、不備なところを記入したりした。目次やページ数がかかなり入っているが、おそらくこのときになされたのかも知れない。湯浅与三氏は「世界日曜学校の頃」(1920.9.26-12.31)、「渡米旅行日記」(1921.9.5-1922.1.30)、「南洋伝道旅行記」(1934.7.5-9.30)と題してそれぞれの時期の日記を『小崎全集』第6巻に、「伝道日記」(1935.3.1-1937.11.12)を同全集第4巻に収録されている。これらによって、その日記部分がどのようなものであるかが明らかであろう。彼の「目録」、「備忘録」などの伝道日記は彼の言動を知るうえで重要であるが、それだけではない。彼は日本キリスト教史上重要な集会や運動に関係したので、これらの期日の確定や内容を知ることができるのである。通常、これらはキリスト教系の新聞・雑誌、会議記録などによって明らかにされてきた。しかし、その情報伝達にあいまいなものもあって、その期日などが不明なことがある。それらは、彼の「備忘録」によって確かめることができるだろう。

また、この時期の自筆集には、彼が設立した東京伝道学校、霊南坂神学校、のちの東京神学校、その学生を委託したバプテスト神学校などで彼が講じた神学講義の概要が収録されている。それらは、神学概論、旧・新約学、キリスト教史、組織神学、実践神学とあらゆる分野にわたっている。そのうち、「神学通〔総〕論」、「日本基督教史」、「実践神学」のように、何回かにわたって書き改められたものもあり、彼の苦心のあとがうかがえる。けれども、神学校の閉鎖その他のために、ほとんどのものが完結しないで終わっているのは、残念である。なお、自筆集には筆者が説明していない断片的な記録がある。さらに茅ヶ崎柳島の別荘、牧師館、新会堂地階の設計図がしばしば描かれている。これらは必要上描かれたものかも知れないが、彼の趣味の一端を物語るだろう。

自筆集につぐ『小崎弘道説教・講演集』3巻は、自筆集の製本後送られてきたもので、和紙に毛筆で記されたものが多いので、別の表題で整理された。

また稿本12巻は著作のための原稿である。彼の著作『日本基督教史』、『馬可伝註解』、『七十年の回顧』をこれらの稿本と比較すると、文意は変わらないが、文章が前後したり、相違したりするところが少なくない。しかも稿本自身が書き改められている。彼は著書を刊行するとき、推こうを重ね、修正、削除、追加などいろいろ工夫をしていたことは、ここより明らかである。

なお、筆者は、本稿の最後にある『日録第一』および『小崎弘道著作集』(3)、(10)、(11)、(12)に記された彼の初期東京伝道時代(1879.12-1890.4)の日記を「初期の小崎弘道日記」と題し、年刊『キリスト教社会問題研究』(第47号, 1998.12)より毎号寄稿する。1880年代のキリスト教は逆風に拮抗し、のちには順風に便乗して勢力を伸ばしていった。それは未熟にみえるかも知れないが、澁刺とした青春の輝きに満ちていた。それを象徴するような存在が小崎である。したがって、彼の初期の日記は、この時期のキリスト教の動向を知るうえで重要な資料となるので、それを復元した。とはいっても、この復元のためにところどころ判読困難な箇所も読みこなし、ワープロに打ち込んだのは、筆者の妻淳子である。また、自筆集(11)に収められた「基督教ト皇室」原稿は、この時期の天皇制に関する彼の見解を知るうえで大切である。これとほぼ同じ内容の論説が同じタイトルで『六合雑誌』(53号, 1884.5.30)に掲載されている。それは無署名である。ところが、どういいうわけか、『植村正久と其の時代』第四卷(1938年, 808頁)以来、植村がこの執筆者となり、『植村正久著作集』第一卷(1966年)にもこの論説が入れている。『天皇と華族』(日本近代思想大系2, 岩波書店, 1988年, 198頁)もそうなので、関係者がそれを指摘し、編集委員の方より筆者に問い合わせがあった。その結果、『近代史料解説総目次・索引』(日本近代思想大系別巻, 同書店, 1992年, 226頁)にはこの執筆者を「無署名」としないで「小崎弘道(推定)」となっている。実は筆者も、この誤りを犯してきたので、拙著『日本プロテスタント・キリスト教史』(第三版, 新教出版社, 1994年)でこれを修正し、「小崎弘道」(田中真人氏との共編著『近代天皇制とキリスト教』人文書院, 1996年)で、小崎におけるこの論説の位置づけを論述しておいた。

以下、凡例のようなことを述べる。

- 1 自筆集70巻の大半は、いくつかのノートの合本となっている。そこで、最初の行は整本された巻数を（ ）内に、また元号でしるされた年月をアラビア数字で叙述する。なお、これらを記した表紙には「小崎弘道自筆集」とあるが、これは省略する。
- 2 2行目以下で1字下げないで記述しているのは、合本されたノートの表紙に記されたものである。そこには彼の氏名としばしば住所が記されているが、これらは省略する。いずれ彼の詳年譜を公表するので、彼の住所の移動は明らかになるだろう。
- 3 2行目以下で1字下げた記述は、筆者の叙述である。「 」や‘ ’の中に記述されているものが、小崎が記したものの引用であることは、いうまでもない。
- 4 自筆集(31)－(61)に収められた「備忘録」の類の漢数字はアラビア数字とする。
- 5 筆者の叙述にある「原稿」は、文章が整っており、いわば完全原稿の体裁となっているものであり、「草稿」は、梗概や事項の列举が多く、完全原稿の前段階のようなものである。
- 6 年月日はすべてアラビア数字で叙述する。
- 7 随所にある〔 〕内の記述は筆者のコメントである。

### (1) 明治9年4月

聞見隨手抄 明治9年4月

「額田縣告諭書之写 明治5年壬申7月太政官」, 「詔書写 明治5年壬申11月9日」, 「井蛙問答」などの政治・社会の動向記録

### (2) 自明治10年9月 至明治11年1月

‘Homiletics—continued January 1878 H.H.Kozaki, Kioto, Japan’

‘Synthesis of a Sermon’

‘Inspiration Complete Universedness’

‘Rules for Bible Reading, Systematic Theology by Rev. J.D.Davis’ [未完]

‘Political Science’

‘The Lecture on Theology 小崎弘道, 日本 京都 1877年 9月’

いずれも同志社英学校学生時代の英文講義ノート

**(3) 明治13年 7月**

Memorandon July 17th 1880 Tokio Japan H.Kozaki

説教〔英文, 日本文〕草稿; ‘Analysis Cause of Modern Socialism’ などの英文論説草稿; 第3回大親睦会メモ; 青年会雑誌局談判箇条など

**(4) 明治13年 5月**

熟字類集 明治13年 5月中旬

中国古典拔萃

熟語集 隨筆第六之続下巻 明治13年 8月

八大家拔萃

**(5) 明治13年 4月—10月**

演説集録 人名簿

1880.5.1東京親睦会の演説「一致の性質」原稿; 5.29の演説「基督教ハ文明ノ母ニアラサル乎」原稿; 7.29の演説「宗教ニ真理ナキ乎」原稿; 「六合雑誌発行の主意」原稿; 1880.10.30青年会演説「愛国心の説」原稿〔未完〕; 名簿; 1900年の年始受けの住所と氏名; 『東京毎週新誌』の進呈先氏名 社友の寄付金と氏名

講議集録 全 雜記第一巻 明治13年 4月

1880, 1885年の説教, 演説, 論説の原稿; 1892年歳晩夜録「偶感」; 「弁証学講義」原稿〔未完〕

**(6) 明治14年 6月—12月**

隨見隨筆第五第六 明治14年上浣

学校用政学要旨 一 明治14年 6月22日

D.ラーネットの口述, 小崎訳〔8章未完〕

隨筆第一第二 神学, 哲学 明治14年12月

隨筆第三第四 政治, 学芸 明治14年12月

いずれも論文筆写, 研究メモ〔未完, 英文多し〕

(7) 明治14年9月

‘Church History by Dr.Learned N.Kozaki Kyoto Japan Sept. 11th 1881’  
小崎成章の筆写〔英文, 216頁〕

(8) 明治15年3月

‘Memoranda N.Kozaki March 27, 1882’  
神の存在の証明, 旧新約批評学, 福音書の真正性, 説教学などに関する小  
崎成章のノート〔英文〕

(9) 明治16年1月

‘Lectures on Biology by Dr.Henry Faulds Jan. 16, 1880’ 講義メモ; 研  
究メモ〔英文〕; 雑記メモ〔日本文〕

(10) 明治17年1月

万事覚抄 明治17年1月

1884.1.6,20-31の小崎千代日記; 『東京毎週新誌』1900年中進呈先; 同誌  
講読依頼者名簿

(11) 明治17年1月

神学講義

「修業録」〔1月3日-6日の所感〕; 「基督教徴証論」草稿〔未完〕; 「基督  
教ト皇室」原稿; 「解釈神学」〔6回〕草稿〔未完〕; 「旧約聖書講義目次」  
〔6回, 未完〕; 「有神論」草稿, 目次〔未完〕; 「基督教ヲ信スルノ理由  
第二」草稿

(12) 自明治19年4月 至明治20年8月

日録第三 明治19年4月

1886.4.21-11.20の伝道日記

日録第四 明治19年11月

1886.11.21-1887.6.30の伝道日記

日録第五 明治20年8月

1887.8.2-1888.3.20の伝道日記

(13) 自明治20年3月 至明治23年9月

宗教改革史

「メスメリズム及びスピリチュアリズム」3.22の原稿；「講義第二宗教改革史」〔12回〕草稿

神学講義 第一 Lectures on Apologetics

「神学概論講義」〔6回〕原稿；「徴証神学講義 23年9月24日始む」〔19回〕草稿

**(14) 明治24年11月 至明治25年12月**

説教扣 第一

1891.11.29-1892.12.30の説教草稿；『我国の宗教及道徳』目次；『基督伝』目次；1892.12.4の説教草稿；「備忘録 明治32年10月18日」古人の和歌，逸言の筆写など；1944.3.27の小崎道雄のメモ

**(15) 明治24年12月**

弁証学講義 明治24年12月

「神学一斑目次」；「弁証学目次」；「弁証学講義」〔36回〕草稿

**(16) 明治25年2月**

Notes Book

‘Christology’ 英文メモ，July. 1892；英文演説メモ；「明治廿六年社員会議案」；「弟子等のキリストに関する思想」草稿；「実験論」草稿；‘Analysis of the Doshisha’ 項目のみ；‘Experimental Knowledge of Christianity’ 英文説教メモ；「聖書と信仰の礎」演説メモ；‘Endowments Needed’；「米国行携帯すべき物品」，書籍，贈品；‘Christianity Verified by Human Experience’ 英文原稿；「米国伝道会社評議員長」への文書〔日付なし〕；アメリカン・ボードへの返信〔宛名なし，1896.4〕；「社長報告 明治29年4月」；同志社社長へのジェームス・エル・バルトンの書簡〔1896.3.18〕；京都在住のアメリカン・ボード宣教師への英文書簡〔日付なし〕；同志社病院，看病婦学校，アメリカン・ボードに対する同志社の寄付金謝絶に関連する5つの英文書簡；「同志社学〔校〕教育方針」；「評議員会議事」〔5.26〕；「神学総論」草稿；神学校，理科学校，政法学校，尋常中学校，高等普通学校の経費など

**(17) 明治26年10月**

‘Christianity in Japan ; its Present Condition and Future Prospect’ シカゴ万国宗教会議における英文演説原稿；‘Missionary Problems as Seen from the Standpoint of Japanese Christian’ 同上；‘An Address to the American Board Meeting’ 英文演説原稿；‘Lectures on History of Doctrine by Prof. Fisher, D.D., L.L. D.’ 講義梗概ノート [October 25, 1893-April 13, 1894]；‘Prof. Harris’ Lectures’ 講義梗概ノート [Oct. 30, 1893-April 30, 1894]；‘Prof. Ladd’s Class in Study of Religion Lecture’ 講義梗概ノート [November 7, 1893-May 16, 1894]；‘Address on the Conference of Pastors and Evangelists’ [日付なし]；James L. Barton への英文書簡 [1895.1.25]；Cary と Gordon への英文書簡 [1895.2.2, 15]；John L. Dearing への英文書簡 [1895.3.6]；Petee への英文書簡 [1895.3.6]；「教理史」講義草稿 [未完]；洋書価格；「三月十一日覚 京都府知事ニ面会ス時相談スベキ件」；Program of the Reforme of the Doshisha’ [1895.3.22]；教員会議案 [1895.3.26]；「同志社各学校規則草案」；同志社各学校卒業生数・就職状況；「社員会議案」[英文]；Gordon への英文書簡 [1895.3.28]；同志社報告 [英文 1895.4.15]；Wood への英文書簡 [1895.4.15]；「同志社明治廿七年度報告」[1895.4.25]；「福音同盟会順序草案」；E. W. Blatchford Esq. への英文書簡 [1895.5.30]；Harris への英文書簡 [日付なし]；Prudential Committee of A. B. C. F. M. への英文書簡 [1895.6.4]；「急ニ着手スベキ件」；「評議会」[1895.6.20]；「用事」[1895.6.29]；用事；常議員会；英文書簡 [宛名, 日付なし]；J. W. Harris への英文書簡 [日付なし]；American Delegate to Japan への英文書簡；Fujita への英文書簡 [日付なし]；‘The Future Prospect of the Doshisha’；「常議会」[1895.11.6]；the Deputation of the A. B. C. F. M. の文書に対する英文書簡 [湯浅治郎と連署, 宛名, 日付なし]；Bradford への英文書簡 [日付なし]；Harris への英文書簡 [1895.12.31]

## (18) 明治26年11月

New Test. Theology

Prof. Porter の旧・新約神学講義梗概ノート [1893.11.2-1894.3.5]



Old Test. History

Prof. Ladd の ‘Kant Seminar’ 目次；‘Prof. Porter’s Lecture on Old Test. Theology’ の講義梗概ノート [1894.1.22-1894.4.23]

(19) 明治27年1月

‘Dialectic of Aesthetical Judgement’ Prof. Ladd の講義梗概かも知れない。

(20) 明治27年3月—7月

‘The Mansfield Summer School of Theology, Oxford, July 16th-July 26th, 1894’ の諸講義梗概ノート

‘History of Christian Theology by Prof. G. Fisher, vol. II’ 講義梗概ノート [1894.4.18-1894.5.9]

‘Old Test. Theology by Prof. Frank Porter, vol. II’ 講義梗概ノート [1894.4.27-1894.5.7]；‘Lecture on Psychology’ 講義目次ノート [日付なし]

‘Lectures New Test. Theology, vol. II, by Prof. Frank Porter’ 講義梗概ノート [1894.3.14-1894.5.10]

(21) 明治31年2月

1892.2-1893.6, 1899.1, 2, 10 の英文・日本文家計簿；1898.6.?-12.25 の説教・演説・論説の英文草稿；『基督教新聞』、『新世紀』の編集・会計など

(22) 明治31年11月

「神学通論講義」原稿 [全6編]，裏表紙に Oct. 1898, April 15, 1925 とある。

(23) 自明治32年1月 至明治33年1月

Note-Book for All Purposes, No.1 January 1, 1899

1899.1.1-12.17の説教・演説・論説の英文草稿；教会関係記録

Note-Book for All Purposes, No.2 January 1, 1900

1900.1.3-10.？の説教・演説・論説の英文草稿；『基督教新聞』、『新世紀』、『東京毎週新誌』の編集・会計など

(24) 自明治33年1月 至明治36年5月

説教及演説 第一巻 明治33年1月

1899.12.31-1900.11.18の説教・演説草稿

備忘録 第二巻 明治33年11月

1900.11.25-1901.5.19の説教・演説草稿

備忘録 全 東京毎週新誌広告依頼者并寄書家の扣

「雑記 明治30年4月18日」として「学校用政学摘要」,「学校用政学要旨」

〔いずれも未完〕;「東京毎週新誌広告依頼者并に寄書家の扣」を日記風

〔1899.12.18-12.28〕に叙述

備忘録 第三巻 明治34年5月

1901.5.26-12.15の説教・演説草稿

備忘録 第四巻 明治34年12月

1901.12.22-1902.3.31の説教・演説・論説草稿

備忘録 第五 明治35年4月6日 同5月25日

1902.4.6-5.25の説教・演説草稿

**(25) 明治35年8月**

The Christianity & Modern Thought August 4, 1902

ハワイにおける講演「基督教と近世思想」,「日本の基督教」,「日本の神学思想」,そして説教‘Sermon to Chinese’の草稿

**(26) 自明治35年6月 至明治37年1月**

備忘録 第六 明治35年6月12日

1902.6.12-11.16の説教・演説草稿

備忘録 第七巻 明治35年11月

ハワイ講演のための覚書;1902.11.23-1903.8.2の説教・講演草稿

備忘録 第八巻 明治36年9月

1903.9.13-11.15の説教・講演草稿

備忘録 第九 明治36年11月21日

1903.11.21-1904.1.8の説教・講演草稿

**(27) 明治36年2月**

地理学講義 明治36年2月

4 回〔未完〕 東京伝道学校の講義かも知れない。

**(28) 自明治37年1月 至明治38年2月**

備忘録 第十卷 明治37年1月10日

1904.1.10-4.1の説教・講演・演説草稿

備忘録 第十一 明治37年4月

1904.4.3-9.11の説教・講演草稿

備忘録 第拾貳 明治37年9月中旬

1904.9.18-10.30の説教・演説草稿

備忘録 第拾参 明治37年11月上旬

1904.11.6-1905.2.19の説教・演説草稿

**(29) 自明治37年1月 至明治38年5月**

Lectures on the Canon of O.T. 旧約聖書総論 Jan. 1904

旧約概論講義草稿；「創世記講義」草稿〔未完〕

I. Lectures on Romans III. Systematic Theology III. Lectures on History of Doctrines April 12, 1905

「羅馬書講義」草稿〔未完〕；「組織神学の結尾」講義草稿；「教理史 第5期 近世神学の時期」講義草稿；「日本基督教思想史 第一篇 序論 日本における基督教の伝播」講義草稿 裏表紙に東京伝道学校とある。

Note Book Bible Translation May 18, 1905

東京伝道学校関係記録, Gulick, Koeber, 浮田和民, 海老名弾正の講義梗概ノート [1906.10.1-1908.6.15]；新約聖書改訳契約書草稿〔日付なし〕など

Introduction to the New Testament

‘The Progress of Japan’ 英文原稿；「新約聖書序論」講義草稿〔未完〕

**(30) 自明治38年2月 至明治40年1月**

備忘録 第拾四卷 明治38年2月20日

1905.2.21-1906.2.4の説教・演説・横川省三追悼演説草稿

備忘録 第十五卷 明治39年2月11日

1906.2.14-10.28の説教・演説草稿

備忘録 第拾六巻 明治39年11月上旬

1906.11.4-1907.1.20の説教草稿

**(31) 自明治40年1月 至明治41年3月**

年賀扣 明治40年, 41年1月元旦

1907, 1908年年賀関係者の氏名・住所, 1907年クリスマス案内状の宛名など

馬可伝講義 明治40年1月 Nov. 1909 Y. M. C. A. H.

マルコ伝講義草稿〔ほぼ完結〕; 「山上の説教の分解」〔項目〕

General Note Book Nov. 21, 1906 New Series NO.1 明治40年1月20日

1907.1.20-6.16の説教・講演草稿; 氏名・住所

日曜集会并説教記録 新第2巻 June 21, 1907

1907.6.23-1908.3.15の説教・講演草稿

Lectures on Church History Lectures on the Practical Theology I 実践神学講義第一巻 Oct. 1907, Nov. 1918

「教会史講義」中世初期までの草稿; 「実践神学講義」緒論, 教職論, 伝道学, 日曜学校論の草稿

実践神学講義第二巻 明治41年3月

礼拝学, 説教学, 牧会学, 教会政治の草稿〔未完〕

**(32) 自明治41年3月 至明治42年5月**

宗教哲学講義 日本基督教史 明治41年3月6日 明治41年10月6日

「宗教哲学講義」緒論, 宗教哲学史〔未完〕の草稿; 「日本基督教史」時期区分, 「序論」より「第三期 基督教内生の時期 1891-1900」までの草稿裏表紙に明治42年5月2日とある。

東京 霊南坂教会日曜説教并集会記録 新第3巻 明治41年3月21日

1908.3.22-7.26の説教草稿, 集会記録

基督教とは何ぞや講義記録 明治41年7月29日

「基督教とは何ぞや」講義草稿〔3回〕, 目次; 東京伝道学校関係記録〔1908.6.9〕; 説教草稿〔1908.9.12〕; 「キリストの復活」講義草稿〔4回〕; 「日曜学校と教会」講演草稿

靈南坂教会説教并集会記録 新第4巻 明治41年8月2日

1908.8.2-1909.1.17の説教・講演草稿

日曜日集会記録 新第5巻 明治42年1月3日

1909.1.24-5.2の説教・講演〔「日本キリスト教史」9回〕草稿

### (33) 明治42年1月—11月

年賀状扣 1909, 1910 Jan.1

年賀関係者の氏名・住所；1910.10.21-25連夜説教会の求道決心者の氏名

靈南坂教会諸集会説教演説 新第6巻 明治42年5月

1909.5.9-8.1の説教・演説草稿；求道者并入会志願者氏名

靈南坂教会説教演説諸記録 新第7巻 明治42年8月

教会同盟交渉委員名簿；1909.8.22-11.14の説教・演説草稿，伝道日記；

組合教会決議案

### (34) 自明治42年11月 至明治43年9月

靈南坂教会説教演説諸記録 新第8巻 明治42年11月

1909.11.21-1910.5.9の説教・演説草稿，伝道日記

聖書講義録其他 第一巻 明治43年4月

「路可伝講義」草稿〔未完〕；「使徒行伝の研究」草稿〔未完〕；『国家と宗教』の構想；「新心理学と基督論」草稿；‘Religion and the States in Japan’英文草稿；靈南坂教会新会堂建築募金趣意書草稿；The Evangelical Alliance of Japanの決議〔英文，日付なし〕

靈南坂教会説教演説諸記録 新第9巻 明治43年5月15日

1910.5.15-7.16の説教・演説草稿，伝道日記；著書出版の構想

基督教とは何ぞや講義一，二，三，四 京都同志社神学校 明治43年5月23日

「基督教とは何ぞや 基督教の神髄」，「将来の基督教」，「第五章 イエスの教か又パウロの教か」の草稿

靈南坂教会説教演説其他記録 新第10巻 明治43年7月16日

1910.7.17-9.19の説教・演説草稿，伝道日記

日本基督教史講義筆記第一巻 明治43年9月22日

「序論」より「第四篇 試練の時代」〔未完〕までの講義草稿；目次

**(35) 自明治43年9月 至明治44年10月**

霊南坂教会説教演説其他記録 新第11巻 明治43年9月22日

1910.9.21-1911.2.9の説教・演説草稿, 伝道日記

説教演説其他記録 新第12巻 霊南坂教会 明治44年2月12日

1911.2.12-5.6の説教・演説草稿, 伝道日記

日本基督教史講義筆記第二巻 明治44年5月

「試練の時期」より「開教五十年」までの講義草稿

説教演説其他記録〔新〕第13巻 霊南坂基督教会 明治44年5月7日

1911.5.7-10.21の説教・演説草稿, 伝道日記

**(36) 自明治44年9月 至大正元年10月**

「基督教教理史」「序論」より「中世の学派」までの講義草稿；1箇月の  
予算

説教演説其他記録〔新〕第14巻 明治44年10月22日

1911.10.22-1912.2.18の説教・演説草稿, 伝道日記

説教演説其他記録 新第15巻 明治45年2月18日

1912.2.18-6.4の説教・演説草稿, 伝道日記

説教演説其他記録 新第16巻 明治45年6月26日

1912.6.26-11.13の説教・演説草稿, 伝道日記

オイケンの宗教の真理講義 大正元年10月4日

オイケンの講義草稿〔2回〕；「基督教の大意」目次

**(37) 自大正元年11月 至大正3年9月**

説教演説其他備忘録 新第17巻 大正元年11月14日

1912.11.14-1913.3.9の説教・演説草稿, 伝道日記；外国旅行準備予算；  
朝鮮巡回；同志社学校寄付申込

説教演説其他備忘録 新第18巻 大正2年3月16日

1913.3.16-12.15の説教・演説草稿, 伝道日記；1914年の霊南坂教会伝道  
計画

説教演説其他備忘録 新第19巻 大正2年12月16日

1913.12.16-1914.3.28の説教・演説草稿, 伝道日記

名簿 1914年年賀状送り先など

備忘録 新第20巻 大正3年3月29日

1914.3.29-9.15の説教・演説草稿, 伝道日記; 洋書価格; 「今回の特別伝道にて注意すべき人」

**(38) 自大正3年9月 至大正5年2月**

説教演説其他備忘録 新第21巻 大正3年9月16日 同4年2月7日

1914.6.6, 9.16-1915.2.7の説教・演説草稿, 伝道日記; 東京市内・地方の人名簿

説教演説其他備忘録 新第22巻 大正4年2月8日

1915.2.8-5.29の説教・演説草稿, 伝道日記

説教講演其他備忘録 新第23巻 大正4年5月30日 同10月12日

1915.5.30-10.12の説教・講演草稿, 伝道日記; 新に教会に招致すべき人々

備忘録 新第24巻 大正4年10月13日 同5年2月19日

1915.10.13-1916.2.19の説教・演説草稿, 伝道日記

**(39) 自大正3年10月 至大正4年4月**

現代と基督教第一巻 大正3年10月22日 バプテスト神学校

「現代と基督教」講義草稿〔14回〕

現代と基督教第二巻 大正4年4月21日 バプテスト神学校

「現代と基督教」講義草稿〔5回〕, 「実践神学」〔数行〕; 「日本組合基督教会史」の章立てと各個教会創立日

**(40) 自大正5年2月 至大正6年2月**

備忘録 新第25巻 大正5年2月19日 同6月25日

1916.2.20-6.25説教・講演草稿, 伝道日記; 「会堂新築経費予算」

備忘録 新第26巻 大正5年6月25日 同11月11日

1916.6.25-11.11の説教・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新第27巻 大正5年11月12日 大正6年3月21日

「基督論一斑」講演草稿〔5回とその補充〕

1916.11.12-1917.3.21の説教・講演, 伝道日記; 人名簿

**(41) 自大正6年3月 至大正7年1月**

備忘録 新第28巻 大正6年3月25日 同6月28日

1917.3.25-6.27の説教・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新第29巻 大正6年6月29日 同11月3日

1917.6.29-11.3の説教・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新第30巻 大正6年11月4日 同7年1月14日

1917.11.4-1918.1.14の説教・講演草稿, 伝道日記

日本基督教史第2巻 大正6年12月14日

「試練の時代」より「内容充実の時代」〔1910年以降〕までの講義草稿；バプテスト神学校生徒名簿, March 1918

**(42) 自大正7年1月 至大正8年1月**

備忘録 新第31巻 大正7年1月15日 同3月30日

1918.1.15-3.30の説教・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新第32巻 大正7年3月13日 同6月23日

1918.3.31-6.23の説教・講演草稿, 伝道日記；南満州, 朝鮮の巡回伝道日程

備忘録 新第33巻 大正7年6月23日 同10月19日

1918.6.23-10.19の説教・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新第34巻 大正7年10月20日 同8年1月11日

1918.10.20-1919.1.11の説教・告別式式辞草稿, 伝道日記

**(43) 自大正8年1月 至大正9年2月**

備忘録 新第35巻 大正8年1月12日 同3月23日

1919.1.12-3.23の説教・講演・講義〔「基督教綱領」第1回〕・告別式式辞草稿, 伝道日記；購入すべき洋書名；世界日曜学校協会大会準備委員氏名

備忘録 新第36巻 大正8年3月24日 同6月8日

1919.3.24-6.8の説教・講演・講義〔「基督教綱領」, 「使徒伝講義」〕草稿, 伝道日記

備忘録 新第37巻 大正8年6月9日 同9月10日

1919.6.9-9.10の説教・講義〔「基督教綱領」〕・告別式式辞草稿, 伝道日記



備忘録 新第38巻 大正8年9月11日 同12月6日

1919.9.11-12.6の説教草稿, 伝道日記

備忘録 新第39巻 大正8年12月7日 同9年2月29日

1919.12.7-1920.2.29の説教・講義〔「奇跡論」6回〕・告別式式辞草稿,  
伝道日記;「聖書神学大意」目次;購入すべき洋書名

**(44) 自大正9年2月—12月**

備忘録 新第40巻 大正9年2月29日 同4月12日

1920.2.28-4.12の説教・講演・講義〔「奇跡論」3回〕・告別式式辞草稿;  
「救済の教理」講義目次

備忘録 新第41巻 大正9年4月13日 同6月30日

1920.4.13-6.30の説教・講義〔「救済の教理」7回〕草稿, 伝道日記

備忘録 新第42巻 大正9年7月1日 同9月26日

1920.7.1-9.26の説教・告別式式辞草稿, 伝道日記;講義〔「救済の教理」  
2回〕草稿;「救済の教理」目次と講義日程

備忘録 新第43巻 大正9年9月26日 同12月31日

1920.9.26-12.31の説教・講話〔「イエスの比喩」8回〕・告別式式辞草稿,  
伝道日記

**(45) 自大正10年1月 至大正11年3月**

備忘録 新第44巻 大正10年1月1日 同3月26日

1921.1.1-3.26の説教草稿, 伝道日記

備忘録 新第45巻 大正10年3月27日 同6月23日

1921.3.27-6.23の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記  
「祈祷論」講義〔7回〕

備忘録 新第46巻 大正10年6月24日 同10月25日

1921.6.24-10.25の説教・講話・講演草稿, ‘Religious Situation of Japan’  
英文原稿〔9.20〕, 伝道日記

備忘録 新第47巻 大正10年10月20日 同11年3月4日 渡米旅行中

1921.10.26-1922.3.4の説教草稿, ‘Christianity in Japan’ 英文草稿, 伝  
道日記〔渡米旅行日記を含む〕

(46) 大正11年3月-12月

備忘録 新第48巻 大正11年3月5日 大正11年5月16日

1922.3.5-5.16の説教・講演・講話〔「キリストの模範」5回〕・告別式式辞草稿, 伝道日記; 執事氏名ほか

神学概論 大正11年4月11日

講義草稿〔未完〕; 「神学通論」, 「聖書」の出席者〔4-9月〕

備忘録 新第49巻 大正11年5月17日 同7月26日

1922.5.17-7.26の説教・講演・講話〔「キリストの模範」4回〕・告別式式辞草稿, 伝道日記; 購入すべき洋書; 役員役割

備忘録 新第50巻 大正11年7月27日 同10月27日

1922.7.27-10.27の説教・講話〔「偉人パウロ」3回〕・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新第51巻 大正11年10月28日 同12月31日

1922.10.28-12.31の説教・講話〔「偉人パウロ」9回〕草稿, 伝道日記; 借家会計報告

(47) 大正12年1月-9月

備忘録 新52巻 大正12年1月1日 同3月23日

1923.1.1-3.23の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新53巻 大正12年3月24日 同6月16日

1923.3.24-6.16の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

実践神学講義 大正12年4月18日

「教職論」, 「伝道学」, 「牧会学」講義草稿

旧約聖書論講義 大正12年4月17日

各文書概論講義草稿〔未完〕

備忘録 新54巻 大正12年6月17日 同9月3日

1923.6.17-9.3の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記; 会堂改築案, 会堂什品

(48) 自大正12年9月 至大正13年12月

備忘録 新55巻 大正12年9月4日 同12月10日

- 1923.9.4-12.10の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記  
 備忘録 新56巻 大正12年12月11日 同13年1月31日  
 1923.12.11-1924.1.31の説教・講演草稿, 伝道日記  
 備忘録 新57巻 大正13年2月1日 同4月19日  
 1924.2.1-4.19の説教・告別式式辞草稿, 伝道日記; 小崎弘道履歴  
 備忘録 新第58巻 大正13年4月20日 同7月5日  
 1924.4.20-7.5の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記  
 備忘録 新第59巻 大正13年7月6日 同10月8日  
 1924.7.6-10.8の説教・告別式式辞草稿, 伝道日記  
 備忘録 新第60巻 大正13年10月9日 同12月26日  
 1924.10.9-12.26の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

**(49) 自大正13年12月 至大正14年12月**

- 備忘録 新第61巻 大正13年12月27日 同14年4月6日  
 1924.12.27-1925.4.6の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記  
 Lectures on Systematic Theology

「系統神学講義」草稿〔1924-1925〕

- 備忘録 新第62巻 大正14年4月7日 同6月30日  
 1925.4.7-6.30の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記  
 備忘録 新第63巻 大正14年7月1日 同10月10日  
 1925.7.1-10.11の説教草稿, 伝道日記  
 備忘録 新第64巻 大正14年10月11日 同12月26日  
 1925.10.11-12.27の説教草稿, 伝道日記

**(50) 自大正14年12月 至昭和2年1月**

- 備忘録 新第65巻 大正14年12月27日 同15年2月28日  
 1924.7.15-19, 30-31の小崎千代日記, 1925.12.27-1926.2.28の説教・告別式式辞・記念会の辞草稿, 伝道日記; 霊南坂教会五十年祝会計画  
 備忘録 新第66巻 大正15年3月1日 同10月31日  
 1926.3.1-10.31の説教・講演草稿, 伝道日記; 旧時の備忘録  
 備忘録 新第67巻 大正14年11月1日 昭和2年1月31日

1926.11.1-1927.1.31の説教・告別式式辞草稿, 伝道日記; 旧時の備忘録

**(51) 昭和2年1月-12月**

備忘録 新第68巻 No. New 68 昭和2年2月1日 同6月5日

1927.2.1-6.5の説教・講演〔全国教育家のために 4回〕草稿, 伝道日記

備忘録 新第69巻 New No.69 昭和2年6月5日 同10月20日

1927.6.5-10.2の説教草稿, 伝道日記

備忘録 新第70巻 No. New 70 昭和2年10月21日 昭和2年12月31日

1927.10.21-12.31の説教・告別式式辞草稿, 伝道日記

**(52) 昭和3年1月-12月**

備忘録 新71巻 New No.71 昭和3年1月1日 同3月9日

1928.1.1-3.9の説教・講演・講話・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新72巻 昭和3年3月10日 同5月3日

1928.3.10-5.3の説教・講話・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新73巻 1928 昭和3年5月4日 同7月9日

1928.5.4-7.9の説教・講話・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新74巻 昭和3年7月10日 同10月9日

1928.7.10-10.9の説教・講話・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新75巻 昭和3年10月10日 同12月24日

1928.10.10-12.24の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

**(53) 自昭和3年12月 至昭和5年2月**

備忘録 新76巻 昭和3年12月25日 同4年3月9日

1928.12.25-1929.3.9の説教・講演・講話草稿, 伝道日記

備忘録 新77巻 昭和4年3月10日 同6月23日

1929.3.10-6.23の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記; 宣教師氏名

備忘録 昭和4年5月

‘Fraternal Message from the National Christian Council of Japan’〔中国  
NCC総会での講演〕英文原稿・「同志社神学校講演」〔3回〕草稿

備忘録 新78巻 昭和4年6月24日 同10月30日

1929.6.24-10.30の説教・講演・講話草稿, 伝道日記

備忘録 新79巻 昭和4年10月31日 同5年2月19日

1929.10.21-1930.2.19の説教・告別式辞草稿, 伝道日記

**(54) 自昭和5年2月 至昭和6年1月**

備忘録 新80巻 昭和5年2月20日 同6月6日

1930.2.20-6.6の説教・講演・講話・告別式説教草稿, 伝道日記〔朝鮮・旧満州巡回伝道日記を含む〕

備忘録 新81巻 昭和5年6月7日 同10月5日

1930.6.7-10.5の説教・講演・講話・告別式辞草稿, 伝道日記〔同上巡回伝道日記を含む〕

備忘録 新82巻 昭和5年10月6日 同6年1月17日

1930.10.6-1931.1.17の説教・講演・講話・告別式辞草稿, 伝道日記

**(55) 自昭和6年1月 至昭和7年5月**

備忘録 新83巻 昭和6年1月18日 同7月14日

1931.1.18-7.14の説教〔連続説教「基督教の根本教義」5回で病のため中止〕草稿, 伝道日記

備忘録 新84巻 昭和6年7月15日 同12月24日

1931.7.15-12.24の伝道日記〔「牧師辞表の草案」, 「謝恩館費未納金辞退の書面」を含む〕

備忘録 新85巻 昭和6年12月25日 同7年5月11日

1931.12.25-1932.5.11の説教・講演・告別式辞草稿, 伝道日記

**(56) 自昭和7年5月 至昭和8年1月**

備忘録 新86巻 昭和7年5月12日 同9月18日

1932.5.12-9.18の説教草稿, 伝道日記

備忘録 同志社講演草稿第一巻 昭和7年5月2日 同11月22日 同9年5月30日

備忘録 同志社講演草稿第二巻 昭和9年5月29日

15回にわたる講演草稿は「我が国の宗教思想(遺稿)」(『小崎全集』第二巻)の稿本となる。

備忘録 新87巻 昭和7年9月19日 同8年1月24日

1932.9.19-1933.1.25の説教・講演草稿, 伝道日記

**(57) 自昭和8年1月 至昭和9年3月**

備忘録 新88巻 昭和8年1月25日 同7月9日

1933.1.26-7.8の説教・講演・講話・『七十年の回顧』英訳の序文草稿, 伝道日記

教会土地関係 昭和8年6月6日

備忘録 新89巻 昭和8年7月9日 同12月9日

1933.7.9-12.9の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新90巻 昭和8年12月10日 同9年3月24日

1933.12.10-1934.3.24の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

**(58) 昭和9年3-12月**

備忘録 新91巻 昭和9年3月25日 同7月4日

1934.3.25-7.4の説教・講演・告別式式辞草稿, 伝道日記

備忘録 新92巻 昭和9年7月5日 同9月24日

1934.7.5-9.24の説教・講演草稿, 伝道日記〔「南洋巡回日誌」は「南洋伝道旅行」(『小崎全集』第六巻)に掲載]

備忘録 新93巻 昭和9年9月25日 同12月13日

1934.9.25-12.13の説教・講演草稿, 伝道日記〔「南洋巡回日誌」は「南洋巡回旅行」(『小崎全集』第六巻)に掲載]

**(59) 自昭和9年12月 至昭和10年11月**

備忘録 新94巻 昭和9年12月14日 同10年2月28日

1934.12.14-1935.2.28の説教・講演草稿, 伝道日記

備忘録 新95巻 昭和10年3月1日 同5月14日

1935.3.1-5.14の説教・講演草稿, 伝道日記〔「伝道日記」『小崎全集』第四巻に掲載]

備忘録 第96巻 昭和10年5月15日 同7月18日

1935.5.15-7.18の説教・講演草稿, 伝道日記〔「伝道日記」『小崎全集』第四巻に掲載]

備忘録 第97巻 昭和10年7月19日 同11月25日

1935.7.19-11.25の説教・講演・雑誌論説草稿，伝道日記〔「伝道日記」  
『小崎全集』第四巻に掲載〕

**(60) 自昭和10年11月 至昭和11年11月**

備忘録 第98巻 昭和10年11月26日 昭和11年4月16日

1935.11.26-1936.4.16の説教草稿，伝道日記〔「伝道日記」『小崎全集』第  
四巻に掲載〕

備忘録 第99巻 昭和11年4月17日 同7月26日

1936.4.17-7.26の説教草稿，伝道日記〔「伝道日記」『小崎全集』第四巻に  
掲載〕

備忘録 第100巻 昭和11年7月26日 同11月14日

1936.7.26-11.14の説教草稿，伝道日記〔「伝道日記」『小崎全集』第四巻  
に掲載〕

**(61) 自昭和11年11月 至昭和12年11月**

備忘録 第101巻 昭和11年11月15日 同12年2月15日

1936.11.15-1937.2.15の説教・告別式式辞草稿，伝道日記〔「伝道日記」  
『小崎全集』第四巻に掲載〕

備忘録 第102巻 昭和12年2月16日 同5月15日

1937.2.16-5.15の説教・論文草稿，伝道日記〔「伝道日記」『小崎全集』第  
四巻に掲載〕

備忘録 第103巻 昭和12年5月16日 同10月4日

1937.5.16-10.4の説教・講話・告別式式辞草稿，伝道日記〔「伝道日記」  
『小崎全集』第四巻に掲載〕

さらに，1937.10.5-11.12の伝道日記が『小崎全集』第四巻に掲載されて  
いる。

**(62)**

神学通論原稿 第一

神学通論原稿 第二

「緒論」，宗教学および聖書学〔未完〕原稿〔日付なし〕

**(63)**

「神学通論」の「緒論」, および宗教学〔未完〕原稿〔日付なし〕

(64)

「神学総論講義」の「緒論」, および実践神学の諸問題〔未完〕講義原稿〔日付なし〕

(65)

聖書神学大意 日曜学校教職員の為め 講義

「神学の分科, 聖書神学の根拠」, 旧約学, 新約学〔未完〕講義草稿〔日付なし〕

(66)

小崎家所蔵書籍目録第一巻

1464冊の蔵書目録

(67)

雑録

「基督伝之研究」目次など〔日付なし〕

(68)

養魚新説第二編

鱒, 鮭の養殖に関する記述の筆写〔未完, 日付なし〕。

(69)

水上げ法

園芸に関する断片メモで弘道の自筆ではない〔日付なし〕。

(70)

文集 思い出のままに

何人かの近代初期の熊本回想〔未完〕の筆写で, 弘道の自筆ではない〔日付なし〕。

**小崎弘道説教・講演集(1) 自明治9年4月 至大正10年9月**

1876年〔1編〕, 1886年〔1編〕, 1889年〔1編〕, 1890年〔10編〕, 1892年〔1編〕, 1893年〔3編〕, 1894年〔2編〕の説教, 1904年〔1編〕, 1906年〔1編〕の講演, 1921年〔1編〕の論説の原稿。弘道の自筆もしくは関係



者の筆写。

### 小崎弘道説教・講演集（2）

「講義の順序」；「馬可伝講義」草稿〔未完〕；「天然超越自然説」原稿；「宗教改革史講義第弐回」原稿；説教・講義原稿；「五十年回顧談講演速記」；「西哲夢物語宗教論批評」原稿；「ヘーリング氏講義第九回筆記」原稿；「スピネル氏講述 聖書講義第十二回」原稿；「ブシュネル氏原著美軒小史訳『基督之性格』」原稿；「月輝著『学仏具眠抄』」筆写；「仏典釈義注解」筆写〔未完〕；「吉本襄著『吾等の故郷』全写本」 いずれも日付なし。

### 小崎弘道説教・講演集（3）

説教・講義原稿 6編〔日付なし〕

### 小崎弘道日本基督教会史稿本（1）

「日本基督教史」緒論，第一編—第三編の著作原稿〔「日本基督教史」『小崎全集』第二巻の稿本〕

### 小崎弘道日本基督教会史稿本（2）

「日本基督教史」第四編—第五編の著作原稿〔同上〕；「日本基督教史年表」1859—1912年原稿〔「日本基督教史年表」『小崎全集』第二巻の稿本〕

### 小崎弘道馬可伝註解稿本Ⅰ（上）

「馬可伝註釈」総論，本論 1:1-9:1 の講演原稿（Ⅰ）〔『マルコ伝註解』教文館，1926の稿本〕

### 小崎弘道馬可伝註解稿本Ⅰ（下）

「馬可伝註釈」本論 9:2-16:20 の講演原稿（Ⅰ）〔同上〕

### 小崎弘道馬可伝註解稿本Ⅱ

「馬可伝註釈」の著作原稿（Ⅱ）〔同上〕

### 小崎弘道日本組合基督教会史稿本（1）

小崎の口述筆記の原稿に組合教会歴史出版委員の字句修正と思われるものが見られる。

本稿は『日本組合基督教会史（未定稿）』日本組合基督教会，1924の稿本であるが，そこには「第六篇 大正時代と組合教会の将来」と題する原

稿が収められている。

**小崎弘道日本組合教会史稿本（2）**

「日本組合基督教会年表」（1859－1914年）；「日本組合基督教会史」〔未完〕  
前巻と同様の処置がなされている。

**小崎弘道七十年の回顧稿本（1）**

表題は欠落。「七十年の回顧」（『小崎全集』第三巻）の第1章－第6章に  
該当する時期の稿本〔未完、日付なし〕

**小崎弘道七十年の回顧稿本（2）**

「小崎弘道著 自叙伝」の表題で「七十年の回顧」（同上）第1章－第10章  
の叙述に近い稿本〔未完、日付なし〕

**小崎弘道七十年の回顧稿本（3）**

「小崎弘道 自叙伝 上」の表題で「七十年の回顧」（同上）第1章－第15  
章の叙述に近い稿本であるが、章立ての仕方が異なり、脱落がある〔未完、  
日付なし〕。

**小崎弘道七十年の回顧稿本（4）**

「自叙伝（付録）」の表題であるが、「七十年の回顧付録」（同上）と関係が  
なく「七十年の回顧」（同上）と章立ては異なるが、類似した叙述内容が  
断片的にみられる。「付録一、日本基督信者の立場より見たる外国伝道問題」  
原稿がある。

**小崎弘道原稿集〔草稿雑〕**

「自叙伝補遺」，「七十年の回顧稿本」（3）の補遺；日本キリスト教史原稿  
断片

日録第一 明治13年10月15日 明治18年1月改之